

Theme Symposium | 競技スポーツ研究部会 | 【課題B】競技スポーツにおけるコーチ養成をいかに効果的に行うか

Coach training for junior competitive sports

Chair: Kiwamu Kotani

Thu. Aug 31, 2023 10:10 AM - 12:10 PM RYB1 (良心館地下1階R Y B 1番教室)

本横断領域部会における解決すべき上位の課題のひとつが「競技スポーツにおけるコーチ養成をいかに行うか」である。日本では、子どもたちの豊かなスポーツ活動を整備するため、運動部活動の地域連携や地域スポーツクラブ活動連携がすすめられている。その一方、ヒューマン・ライツ・ウォッチの報告では、日本の子どもがスポーツのなかで、暴力等の虐待を経験することが多く、その結果、スポーツが痛みや恐怖、苦痛をもたらす経験となっていることが指摘されている。このように、日本のジュニア（育成年代）競技は、コーチによるプレーヤーへの暴力等の虐待を含む、様々な課題を抱えたまま、組織的な移行期をむかえているといえる。もちろん、組織的な移行自体が課題解決の一方策ではあるものの、それだけでは子どもたちの豊かなスポーツ活動の実現には繋がらないことは明白である。そこで、本シンポジウムでは「ジュニア（育成年代）競技スポーツのコーチ養成」をテーマとして設定し、コーチ養成のシステム、指導法、コーチのキャリアパスの視点からジュニア（育成年代）競技スポーツのコーチ養成にまつわる課題を洗い出し、今後のコーチ養成について議論する。

[競技スポーツ-SB-2]How to be a coach for elementary school-age children

*Saori Nakayama¹ (1. University of Tsukuba)

<演者略歴>

筑波大学体育系助教（博士・コーチング学）。専門はハンドボール、小学生年代の子どもに対するコーチング、指導者育成。大学院在学時には、ドイツ・ライプツィヒ大学スポーツ科学部へ留学し、U10チームでコーチング活動を行った。現在は教育・研究活動に加えて、小学生チームでコーチング活動を行っている。

小学生スポーツを取り巻く課題として、全国小学生大会の在り方や公式戦の1試合あたりにおける個人の出場時間数の偏り、暴力やハラスメントなどの不適切な指導、早期専門化によるバーンアウトなどが挙げられている。また、国内外のさまざまな競技において、小学生時期に競技を始めた場合、将来オリンピックやプロ選手として活動する確率は低いことが報告されている。

これらの諸問題の解決を目指して、すでに国内においてさまざまな取り組みが行われている。例えば、サッカーでは2011年に8人制が導入され、バスケットボールでは2015年にマンツーマン防御が義務化、柔道では2022年に全国小学生大会・団体戦が廃止されている。これらの取り組みの背景、すなわち多くの子どもにとって将来スポーツが彼らの人生を彩るものになるようなコーチング活動を実現させるためには、大人のスポーツ活動のコピーや分解による簡易化ではなく、子どもには子どもに適したものがあるということを前提に取り組む必要がある。本発表では、ジュニア期の初期段階としての小学生年代に焦点を当てて、具体的なコーチングのあり方、トレーニングの方法および内容について考えていく。